

前橋育英高校報

発行
前橋育英高等学校
合同紙広報委員会
前橋市朝日が丘町13
TEL027-251-7087
FAX027-252-9419

印刷
上毛新聞社

主な内容

- 2面 平成14年度生徒募集要項
- 3面 スポーツの結果
- 4面 保護者会日より
- 5面 (進路指導講演会他)
- 6面 同窓会日より
- 7面 (私の近況報告)
- 8面 後援会日より

建学の精神

正直
純潔
無私
愛

建学の精神とすばらしい伝統 活力のある学校づくり

理事長・学園長 武田孝雄



文武両道の育英高校として、その評価にたがわず今年もスポーツにおいて生徒が頑張ってくれました。

県高校総体男子の部では、昨年に続き三年連続十度目の優勝を成し遂げ、その後の関東大会・インターハイにと活躍。特に熊本大会において陸上部は、学校対抗トラック種目優勝・陸上総合準優勝、その他ボクシング・柔道・ウエイト等素晴らしい成果を挙げてくれました。

また硬式野球部も夏の大会は、今度こそはと期待されましたが残念な結果となりました。しかしながら念願の野球部後援会が

一期生の清水克英君を会長として、OB会・同窓生が主体となって、OB会・同窓生が主体となって、結成され、強力な応援体制ができたことは明るいニュースであります。秋の新人戦も健闘しました。来春の活躍が大いに期待されます。さて、この素晴らしい実績は、勿論教職員、生徒が一体となって努力した結果ですが、その陰には保護者会・同窓会・後援会および学園協会の物心両面にわたるご支援ご協力があつたればこそと心より感謝しております。

さて「聖域なき構造改革」を行うたつて小泉内閣が発足。慢性的な経済不況・少子高齢化社会の不安に対応して、活力ある社会の実現を目指し思いきった抜本的改革に着手しております。私学経営を巡る状況は、少子高齢化、個人個人の価値観の多様化、経済の低迷などによって年々厳しさを増しています。こ

うした中、育英短大においては昨年、保育学科の定員増を実現。本年は英語科の改組転換を試み、八月一日付で文部科学大臣の認可を得て、平成十四年度から現代コミュニケーション学科を設置します。更に保育学科に専攻科を設置し、学士の称号と幼稚園教諭一級免許状が取得できるよう、四年制大学の設置を前提とした計画を進めております。育英高校においても学校長を

中心とした将来構想検討組織を設置し、学園将来構想推進会議との調整により、育英短大との相互理解と交流・連携を強力に推進し、保育科と短大との実質的な五年一貫教育の実現、将来の教育のあり方として中・高一貫教育を視野に入れた改革をはかっていく必要があります。改革の二一は、教育現場にあります。その目的は教職員一人ひとりが生徒・保護者の期待

を受け止めることです。将来どのような学校であつてほしいのか。そのためには何をどうしなければならぬか。これらを考え、今こそ校長を中心として全ての教職員が理事会と一体となって、更なる改革に取り組む時であります。建学の精神とすばらしい伝統のもと、地域社会にこたえる活力のある学校づくりをすることが急務であります。

しかし今回の事件は、その根底に宗教的・思想的対立があり、その上に大國アメリカに対するイスラム世界(中東諸國)の反発があつて、一朝一夕には解決できない問題となりつつある。国際世論を無視するような性急な強硬策は、マスコミが指摘するような第三次大戦を誘発する恐れ無きにもあらずである。当分は世界の人々が、この事件の経緯を固唾を飲んで見守ることになるであろう。

アメリカの同時多発テロと愛国心

学校長 中川豊美



旅行も無事終えた。いよいよ前期末の成績等の処理に入った矢先の九月十一日の夕刻、アメリカ中枢部に対する同時多発テロのニュースが飛び込んできた。

ニューヨークにある世界貿易センタービルに、ハイジャックされた航空機が衝突した瞬間や、その後炎上したビルが二棟とも噴煙を上げて崩壊する衝撃的なさまを、日本のみならず世界の

人々がテレビを通じてリアルタイムで視聴し、作り物ではない本物の事件のすさまじさを痛感したことと思う。この事件による犠牲者は五千人ほどで、日本人の行方不明者も二十数名といわれ、アメリカが被った被害は、まさに日本軍による真珠湾攻撃のそれを上回る史上最悪のものとして喧伝されている。

名誉を傷つけられたブッシュ大統領は直ちに「犯人の逮捕とテロに対する報復」を宣言。アメリカ国民の圧倒的な支持と、日本をはじめとする世界各国からの協力と援助を確認すること

ができた。しかし今回の事件は、その根底に宗教的・思想的対立があり、その上に大國アメリカに対するイスラム世界(中東諸國)の反発があつて、一朝一夕には解決できない問題となりつつある。国際世論を無視するような性急な強硬策は、マスコミが指摘するのような第三次大戦を誘発する恐れ無きにもあらずである。当分は世界の人々が、この事件の経緯を固唾を飲んで見守ることになるであろう。

さて、今回の事件を通じていろいろと考えさせられることがあるが、その一つにアメリカ国民の愛国心がある。今の日本には「愛国心」という言葉自体を、右翼思想や戦前教育の復活と結び付けて批判するむきもある。だが、アメリカ人は主にヨーロッパからの移民でありながら、新天地を夢見て集まった建國の民が独立戦争以来、常に勝ち続け「強いアメリカ」を築いてきた、その人々を数世代前の先祖に持ち、今もなおその自信と誇りが愛国心となつて受け継がれているのである。

吹奏楽部

追究すべき音楽は何かの転換期
強い熱意と高い目標で邁進

顧問 深沢 準一

現在、本校吹奏楽部は三十名で活動をしている。主な取り組みとしては、吹奏楽コンクールやアンサンブルコンテストといった大会への参加や、部独自に開催する定期演奏会、そしてサッカーや野球の応援活動、入学・卒業式の式典演奏等、年間を通して実に充実した活動をしている。そして、部員たちもそれらの活動に対し、各自が強い熱意と高い目標を持って邁進してくれていることは、非常に喜ばしいかぎりである。

◆私個人は国語の教員であるが、現在に至るまで吹奏楽に関わってきた。そして現在に至るまで音楽、特に吹奏楽に関しては流行歌と違い、不変的で普遍的な「感動できる音楽」があったように考えていたが、現実に変化



女子ソフトボール部は、県高校女子夏季ソフトボール大会で強敵の大附高と対戦、勝利した。その勢いをかって優勝校・高商に挑んだが、善戦及ばず惜敗。しかし、その内容は今後大いに期待できる。朝練か

県高校女子ソフトボール選手権で大活躍

女子ソフトボール部

県高校対抗陸上競技大会で

陸上部

県高校対抗陸上競技大会が九月十五(土)、十六(日)に開催され、本校陸上

ら夜までノックは続き頂点に立つ日も近い!!
スタッフ 監督・原口秀樹/顧問・江/部員・十五人

田中雅/キャプテン・梅山和美
C/クラブ後援会長・斉藤美佐

上部が優勝した。特に男子一部千六百mリレーでは田村次郎(3-A)・永田祐也(3-B)・森田行雄(3-B)・高橋明輝(2-A)の四選手が健闘。今回の優勝に大きく貢献した。

演劇部
「誠実で好印象」との評価

顧問 鈴木 尚子

平成十三年度高校芸術祭演劇部門中毛地区大会が九月二十三・二十四の両日、群馬会館で開催されました。

育英高校演劇部は、なりこ作「Dear...」を上演。今大会は、同好会から演劇部に昇格して初めての参加でしたが、三年生の先輩たちに力を借りて、少人数ながらキリリと引き締まった作品に仕上がりました。

舞台は、学校の屋上。そこで交錯する「過去の男」と「未来の女」と「今を生きる一人の少



女」の人生。劇中劇という複雑な設定で場面がクルクル変わるなか、生徒たちは、心を解放し

実際、県内の吹奏楽強豪校も、以前と同様の音楽を創造した結果、軒並み成績を落としている。

◆流行に迎合した音楽を追究するか、不変・普遍的な音楽を追究するか、今、本校吹奏楽部も大きな転換期にある。

平成14年度生徒募集



少子化で受験者減少
定員確保の調整大切

教頭 高田 孝

保育科の募集は、今回も定員を割ったが、方法の一部修正を加えることにより、定員を確保していきたいと考えている。

【募集内容】

昨年の生徒募集は、理数コース・特文コースが、共に定員を大幅に上回る成果を収めて終了した。
体育科の募集も定員は充足できた。だが、部活動ごとの希望人数に相変わらずの偏りがあり、当該顧問を悩ませている。

つながら、いい勉強になったことと思えます。
今後の活動としては、十一月九・十日の育英祭で発表する予定です。ぜひお出かけください。練習の成果を見ていただければ幸いです。

に足を運んで粘り強い募集活動をしていく必要があるだろう。
普通科は、一般入試の受験者が減少している、定員確保の調整が困難であることから、この推薦での受験者を一人でも多く取り込む努力をしていかなければならない。

保育科においては推薦条件の一つである「まじめでやる気のある生徒」を前面に出して定員の確保を考える。育英短大保育学科への進学希望者は、全員入学できるように検討していきたい。

【募集要項(概要)】

- 一、募集定員 合計五百二十人
- 普通科 男女 三百六十人
- 理数コース 八十人
- 特進文系コース 八十人
- 進学コース 二百人
- 体育科 男子 八十人
- 保育科 女子 八十人
- 二、試験日程
- ◎特待生および推薦試験
- 試験日 特待生 一月十七日 推薦 一月十八日
- 合格発表 一月二十五日
- ◎一般試験
- 試験日 二月一日(学力)
- 合格発表 二月七日

※詳細は募集要項をご覧ください。

スポーツの結果

体育科長 須藤 一郎

◆インターハイ◆

陸上部学校対抗準優勝(トラックの部)

陸上男子 200メートル 優勝 森田 行雄
400メートル 3位

柔道66kg級 3位 武田 恵三
ボクシング・ウェルター級 3位 茂木 謙介

「このときが輝き風になる」をスローガンに高校スポーツの祭典、平成十三年全国高校総合体育大会が八月、熊本県で開催された。本校から十一クラブ、六十名余の生徒が県代表として出場した。今年も各クラブともに活躍がみられたが、特筆すべきは、陸上の二百m優勝、四百m三位の森田、柔道66kg級三位の武田、ボクシングウェルター級三位の茂木は立派であった。また学校対抗準優勝の陸上部の活躍に盛大な拍手を送りたい。

【水泳】

男子高飛び込み十二位・男子板飛び込み十一位 須田恭介(1-A) / 男子100m背泳ぎ予選第五位 月田康之(3-A) / 200mバタフライ予選第六位 吉井正和(1-1) / 200mバタフライ予選第九位 山口一郎(1

66kg級第三位 武田恵三(3-B) / 73kg級一回戦負 松村和樹(3-B)

【サッカー】

団体二回戦負

【フェンシング】

団体二回戦負/個人エペベスト16 結城宇基(3-B) / フルレー一回戦負 結城宇基

【自転車】

エリミネーションレース決勝九位 摩庭健策(3-10) / ポイントレース予選十位 外處祐司(2-A) / 4km速度競走予選十二位 武藤篤弘(2-B) / チームパーシュートルレース二十二位 摩庭健策・外處祐司・武藤篤弘・渡辺将大(1-B)

【ボクシング】

ボクシングウェルター級第三位 茂木謙介(3-B)

【男子テニス】

シングルス二回戦 竹島郁朗(3-4) / ダブルス一回戦 竹島郁朗・細井亮吾(3-9)

【女子テニス】

団体戦一回戦負(対・弘前学院聖愛高校)

【弓道】

団体戦予選敗退/個人予選敗退 斉藤敦子(3-4)・武井裕貴(3-5)

【ウエイトリフティング】

53kg級第五位 犬飼博文(3-A) / 69kg級第十六位 提阿練(2-B)



大谷兄弟J1に入団内定!!

サッカー部の大谷昌司選手(3-B伊勢崎一中出身)が9月14日にJリーグ鹿島アントラーズと入団交渉し内定、また弟の大谷圭司選手(3-A伊勢崎一中出身)も10月10日にFC東京に入団が内定した。本校からはプロ16人目である。兄弟選手がそろってプロ入りするのは本校でも初めてのこと。

写真は 大谷昌司選手(兄)右から2人目

【なぎなた】 個人予選負 福田佳小里(1-2)

【ゴルフ】 全国高校選手権出場 原澤和彦(3-2)

◆第56回国民体育大会◆

(みやぎ国体)

本校生徒の活躍を期待

第五十六回国民体育大会夏季大会が九月八〜十一日、宮城県で行われた。本校の吉井正和選手がメンバーの一人として出場した水泳四百mメドレーリレーは、第三位に入賞した。

なお秋季大会は十月十三〜十八日まで同地で開催される。本校からは次における選手の出場が決定している。

今年も本校選手の活躍を期待したい。

【夏季国体の結果】

◎水泳 四百mメドレーリレー決勝第三位入賞 吉井正和(1-1) / 二百mバタフライ決勝第六位 吉井正和 / 高飛び込み第六位 須田恭介(1-A) / 四百mメドレー予選⑥ 月田康之(3-A) / 二百m背泳ぎ予選③

(3-B)・阿久澤剛(3-A)・坪内秀介(3-B)・大谷圭司(3-A)・大谷昌司(3-B)・浅川智(3-10)・佐田聡太郎(3-A)・里見仁義(3-A)・岡本勇輝(3-A)・福嶋俊樹(3-B)・相川進也(3-B)・須田剛史(3-B)・小暮直樹(2-A)・宮川純一(2-B)・山田耕介少年監督(教諭)

◎ボクシング ウェルター級 茂木謙介(3-B)・阿部浩一(教諭)

◎男子テニス 竹島郁朗(3-1)・松田香織(3-1)

◎女子テニス 武井裕貴(3-5)

◎陸上 井汲亮介(2-1)・森田行雄(3-B)・井上喜貴(2-B)・宮下圭太(1-B)・安達友信(教諭)

◎自転車 武藤篤弘(2-B)

◎フェンシング 結城宇基(3-B)・佐藤孝宏(2-B)

硬式野球部に後援会発足!!

【中毛リーグ】

8月23日 対伊工 6対5
対前工 2対5

【秋季大会】

9月8日 対洪工 3対0
15日 対藤北 11対0
24日 対高東 5対4
30日 対桐一 4対5

硬式野球部に六月七日、初めて後援会が発足した。初代会長には清水克英氏(二期生)を選出。また同時に募金活動を開始し、関係者の皆様にはご協力いただき厚くお礼申し上げます。これからも、野球部に熱いまなざしを向けていただければと願う。どうぞよろしく!

進路指導講演会

“クールな頭と 熱いハート”で

副会長 静 一行 (進路指導委員長)



進路指導講演会を七月二十日、二百数十人の皆様の参加のもとに視聴覚教室で実施しました。全体会として、受験制度の多様化と進路選択」と題し栗原進路

指導部長が講演。大学短大担当 神山先生、専門学校担当 村田澄夫先生、就職担当 澤野先生にそれぞれ自己紹介と各進路実績および現況の説明をしていただきました。その後、分科会として学年ご

とに進路の詳細にわたりQ&A方式で検討を行いました。今後の社会情勢・指定校の基準・将来の職業選択と学部への方向性・推薦入学の方法・進路の多様性など討議。また「進学の費用、編入学は？」そして「親は

いかに対応すべきか？」と議論は続きました。 私たち進路指導委員会は “クールな頭と熱いハート”で子どもたちの未来を考えていきたいと思えます。皆様のご理解とご協力をお願いします。

大/学/訪/問

平成13年度研修視察を実施

本校進路指導委員会を中心とした「平成十三年度研修視察(大学訪問)」は十月六日、東洋大学をたずねた。

年には埼玉県川越市、朝霞市、そして本県板倉町にキャンパスを移転。本校でも年々合格者が増え、在学生もいる。

本年度は、実施に向けて保護者会から「進学者が比較的多い大学を」という要望を受けて、県近郊に三つのキャンパスをもつ東洋大学に決定した。しかし近

当日は、学校関係者・保護者合わせて二十人が参加。大型バス一台で三キャンパスを回った。それぞれが個性をもった形に分けられているようだった。まだ校舎も新しくともきれいな印

進学(選択)の二端へ 東洋大学

象。子どもの進学(選択)の一端になれば、と有意義な一日を過ごせた。次回は皆さんにも奮って参加していただきたい。

今秋11月・第17回学園祭バザーを開催 成功に向けご協力を!!

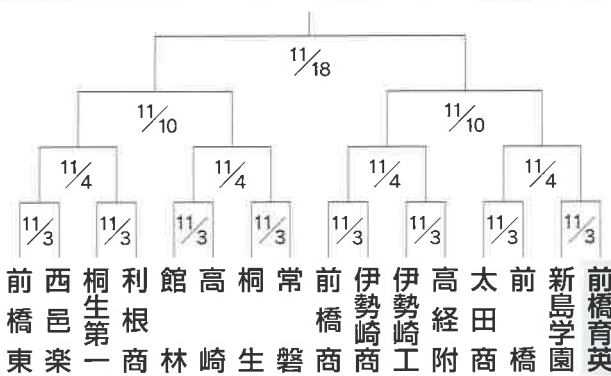
副会長 狩野浩志 (総務委員長)

日頃より、保護者会活動に対して格別のご理解を賜り厚く御礼申し上げます。 さて、この度は二年に一度実施される第十七回学園祭にあ

り、生徒会諸事業の運営費を補助することを目的として保護者会バザーを十一月十日、模擬店を十一月九・十日に開催させていただきます。ことになりました。

保護者会本部役員が一体となつて真剣に取り組み、最大の効果が得られるよう懸命な努力をしています。この事業を成功させるためには、保護者の皆様方をはじめ学校・同窓会・後援会の絶大なるご支援が必要です。趣旨をご理解の上、物心両面にわたるご協力を心からお願ひ申し上げます。

第80回全国高校サッカー選手権県大会組み合わせ



2001年度学校見学説明会

(オープンキャンパス)

日程	地区名	普通		体育	保育	保護者	計
		男	女				
8月18日	前橋地区	114	236	20	55	26	451
8月19日	前橋地区II	137	240	24	35	18	454
8月23日	高崎・玉村・群馬	123	204	27	55	28	437
8月24日	藤・富・渋・沼・多・甘・碓・安・館	155	157	44	58	23	437
8月25日	桐・伊・太・佐・新・山・勢・群・北群・吾・利・邑	121	307	59	133	52	672
9月22日	全地区	49	111	11	35	20	226
合計		699	1255	185	371	167	2677

ケナフってなに?

ペルシャ語のKENAF。麻という意味である。古くから、東南アジアや中国で栽培されてきた。繊維は衣料に利用され、木質部は燃料に、種子からは油をとるなど用途は豊富。人間生活と深いかわりを持ち、最近、脚光をあびている植物だ。 生長期に多量の二酸化炭素(CO2)を吸収する働きがあり、地球温暖化の防止にも役

立つ。水質浄化の点でも、注目されている。地球環境にやさしい植物といえる。 育英祭や、その他の集会の折、ちよつとご覧になっていた。北校舎の正門入り口を入り、左の建物の下の植え込み。そこにスクスクと10本のケナフが育っている。 ※ご希望の人にはシーズンオフに種子をお分けできると思います。 事務長 根岸豊年



母校に期待と希望

会長 関根映一 (第一期生)



同窓会会員の皆様には、日頃より母校の発展に、多大な御尽力を頂き、感謝申し上げます。

私事で、恐縮ですが、今年二月、前橋市議会議員の任期を満了しました。五期二十年間に亘り、皆様には大変お世話になり、心より御礼と、感謝を申しあげます。不出馬の理由は、自営である会社の将来、寝たきりの母親の介護です。今日の経済不況・雇用・高齢化の進展は、深刻な現実問題と受けとめています。

さて、執筆中にショックなニュースが報道されました。アメリカ合衆国で史上最悪のテロ事件が勃発し、世界に衝撃が走りました。平和と民主主義をふみにじる暴力。許せない行為です。尊い人命が失われました。多くの犠牲者に深い哀悼を捧げます。日本政府として、被害者救援のため、あらゆる支援を行うべきと考えます。

同窓会
だより

二十一世紀は、様々な面から、大変厳しい時代に入った感じがします。私が最近感動した二冊の本を紹介したいと思います。

『隻腕の剣士、教壇に立つ』著者・浅野健治氏/潮出版社です。

主人公は、中山彰さん。高校剣士の青春時代を中心にした取材による物語です。生まれながら右腕がないというハンディを乗り越え、全国の剣道大会を舞台に大健闘。母校(関西創価高校)で社会科の教師として活躍しています。

もう一冊は『あなたはひとりじゃない』。著者は、大平光代

個性豊かな生徒ばかり

金子雅人 (第12期生)



仏教とは、ものごとの因果、つまり原因と結果を大切にすること、その宗教と言われています。その宗教の教えの一つに「業縁」という言葉があります。この言葉の

意味は、一つの結果を導く一つの行為(業)は、多くの間接的な条件(縁)によって引き起こされる。と同時に、その行為がまたなんらかの条件・原因となって次の行為を引き起こされるとい、いわば行為の連鎖を説明

氏/光文社発行です。いじめによる自殺・非行などから立ち直り、弁護士として、悩める母子供達へ、力強く生きることにアドバイスを送っています。

この二つの本からは、苦勞して、努力を重ね、苦難から逃げずに真正面からぶつかる姿勢・氣迫が感じられます。そして母・義父・友人・恩師との出会い、また何があっても負けないという強い信念。いじめや少年犯罪が、社会問題となっている現代。それぞれの生き方、考え方に感銘を受けました。

さて、高校総体で三年連続十回目の男子優勝、インターハイでの活躍、野球部後援会の発足、Jリーグ選手の誕生(十六人目)、短大での学科新設など、母校では明るいニュースもたくさん見受けられます。同窓会員の皆様、健康に留意して、母校に期待と希望を託そうではありませんか。

する言葉ということ。とここで、私も母校に奉職して今年で十九年目になります。

現在、体育科二年生のクラス担任をしています。クラスは、十ニクラブに所属する生徒で構成各競技の特性もあつて個性豊かな生徒ばかり三十七名と充実した日々を送っています。

本校各運動部の活躍は、新聞・テレビ等を通じて知ること多いと思います。私も奉職当初から水泳部の顧問をしています。これまでの実績として、昭和六十二年以降関東高校・イン

親子2代同窓生

大塚 紀昭 (第7期生)
大塚 彰宗 (第38期生)



私は七期の卒業生です。現在、同窓会の一役員として務めています。今年、長男が入学し親子二代となりました。私が在学していた時と今では生徒数も違い、また育英を取り巻く環境も違

ターハイ・夏季国体と連続出場、県高校総体では競泳男子学校対抗で十二回の総合優勝、インターハイでも平成十一・十二年度と連続して女子飛込競技学校対抗総合優勝を果たすという大記録を残しました。部としての伝統が育ってきたといえるでしょう。

これも多くの良き指導者・良き理解者・良き環境、そして何よりも良き生徒(後輩)に恵まれたからと思っています。最近、人間関係の希薄さがとかく問題にされますが、本文冒

何かと戸惑うことが多いように感じます。私の周りだけでも二代の育英生、同窓生が多数いて親戚だけでも三二同窓会が開けるくらいです。

私は婦孺村議会議員として村の行政、特に文教関係に力を入れて活動しています。その関係でいろいろな学校や教育のあり方など聞こえてきたり、話をする機会があり勉強になってい

す。その中でも育英の先生方が、公立の先生方と違うのは「手抜き」の教育をすれば、学校がなくなるのだ」という思いが強いこと。これからの母校がなくならないよう、しっかりとお願い

長男は、小学校低学年から馬と戯れ、地域の獅子舞に参加

この二つに力を入れて、勉強のほうはそつちのけで育ってきました。昨年、馬の大会で北海道へ。結果は、さんざんで関係者の皆さんに迷惑をかけました。今年こそはと準備に入っています。獅子舞も九月のお祭りに夜遅くまで各地区を回り、翌日は「学校に行くのは」と……。しかし台風のおかげで、いろいろと助かったようです。今は、私の叔父の所に下宿し通学。どうも勉強より馬、獅子舞のほうに重きを置いているので、成績は低空飛行です。途中で墜落しないで、卒業してくれればと思っています。

頭の仏教の教えのように、実はこの世の中は何らかの縁で全て結びついているのではないのでしょうか。本校の伝統を創り卒業した多くの同窓生の各方面での活躍は、在校生達の文武における活躍の励みとなり、また新たな伝統を創り上げるという結果を導き、その逆にもなりえることでしょう。

前橋育英高校にかかわる者としての縁をこれからも大切にしながら、本校のさらなる飛躍に貢献できるよう頑張りたいと思います。

これからも親・子・孫と代々の同窓が増えていきますよう、育英の発展を期待します。

私の近況報告



自分の根底にあるもの

第17期生 金子 登
(赤城村立南中学校教諭)



現在、私は中学校の教員として毎日、充実した生活を送っています。育英高校へは入試や体験入学の引率、また現在指導中の柔道部の生徒を連れて、年に何度か顔を出させてもらっています。卒業生としては、育英高校に立ち寄る機会が多い方ではないかと感じています。

毎日のように話題となつている最近の「中学生」。いわゆる「非行に走る中学生」。多くの生徒を見ていると、中学生本人以上に保護者や教員（自分も）を含めた周囲の大人達の方が、その子の指導に対して先に「切れこしまつて」いるような気がしてなりません。私の高校時代を思い出すと、柔道部顧問の新井先生をはじめ、諸先生方の御指導は、決して「甘い」ものではなかったと記憶しています。私も、中学時代は「自由」という名のもと、好き勝手な生活を送り、努力することの大切さを忘れていました。ところが、高校入学と同時に環境は一変。柔道に始まって、勉強でも努力して勝ち取ることの大切さに気づかせてもらいました。その時、育英高の先生方は「切れる」指導ではなく、向き合つて話をしてくださいました。時には、厳しく注意も受けました。このことは、自分にとって育英高校から学んだものであり、「自分の

根底にあるもの」と痛感しています。

現在の、自分の前にいる中学生が引き起こす「非行」は、自分を含めた大人の接し方に大半があるように思えて仕方ありません。そう考えると、中学生の非行は大人への訴えでしょう。漢字を置きかえて書けば、まさに「悲行」であると言えそうです。

私も何とか、人生にかじりついています。育英高校の先生方をはじめ同窓生の皆様も、ますます御活躍されることを期待しています。

憧れの国ジャポン

第22期生 田村 和江
(フリーランス翻訳
業、美術画廊勤務)



前列右から2人目

私は本校英語科一期生で、国際ロータリー財団交換留学生として御推薦頂き、米国へ一年間留学しました。この一年が、それからの私の人生に多大な影響

を与えた事は、言うまでもありません。

異文化間コミュニケーションに深い関心を寄せた私は、英会話を教えていましたが、後に未知の世界であった仏語文化圏への関心を強めていきました。そして海外仏領であるニューカレドニアへ自身の語学留学。と

第2幕の開演

第1期生 中島 聖一
(中島和洋裁縫学院
副学院長、靴職人)

サラリーマンを辞めて、早いもので三年近くが経過した。当初は家業（各種学校）に入ったものの私ができること、教えられることは何もなかった。

家業という制約はあるものの、今までは違う世界の仕事探しが始まった。

とは言え、ちよつとのんびりしながら一年ぐらいの間に自分のやりたいことが見つければ「など」と呑気に構えていた。

久しく会っていない友人を訪れ、山に入り、新たな趣味に挑戦し、とにかく外に出て人と会うことに多くの時間を費やした。そんな折、学校の倉庫に眠っている革を発見し、自分の使っていたビジネスバッグを模倣しながら創つてみた。すべて手縫いでどうにか完成した。面白かった。

時に、現地で中学生に日本語を教える教師補助の職に出合いました。経済的に貧しい国ですが、素直で純粋な生徒達。「憧れの国ジャポンをもっと知りたい」というあふれる好奇心と熱意に感動の連続でした。

私の手な仏語に熱心に耳を傾けてくれる生徒のために「私



に何か出来る事はないか」と、現在も自らの仕事の傍ら日本とニューカレドニアとの交流をより深いものにできるようボランティアを続けています。子どもたちの日本への大きな夢や希望を叶えらるよう、微力ながらグローバルに活動を続けていきたいと願っています。

られる。

幸運にも、創つたバッグを評価していただき、ある程度注文に応じられるようになった。スポットではあるが、教室も開くようになってきた。

スタートしたばかりの自分にとって、これから靴職人として実現させたい夢がある。それは革の本場、歴史と伝統、確かな技術と豊かな感性に支えられたイタリアで修行すること。

昨年、今年とフィレンツェに行つてきた。その思いはさらに募るばかりだ。

後援会だより



『教育力』を高めよう

前橋育英高等学校後援会会長

前田 勇

ご同慶の至りであります。近頃の育英の生徒一人ひとりから、『誇り』と『自信』を感じ取ることが出来ます。この生徒たちが、ますます素

といつても『教師』の資質にかかって参ると思えます。したがって先生方への期待は大なるものがあります。そして『教育環境施設』の整

備のためには、学園はもとより私たち後援会等の支援協力が大切です。少子化の厳しい社会環

境下で、前橋育英高校が保護者や生徒、地域社会のニーズに最も、『教育環境施設』を充実しなければなりません。『教育力』を高めるという事は、何

らしても『教育環境施設』の整備のためには、学園はもとより私たち後援会等の支援協力が大切です。少子化の厳しい社会環

新役員改選 顧問・表彰制度など審議

平成13年度 後援会定期総会

本年度の前橋育英高等学校後援会定期総会が六月二十九日、群馬厚生年金会館で開催されまし

た。例年にも増して、役員・理事の方の出席を得、議事が進行しました。まず前田後援会長が大型バス寄贈の経過を含めあいさつ、続いて武田理事長のあい

- 常任理事 岩田京子 ほか
- 各年度保護者会副会長 伊佐重夫 ほか
- 各年度クラブ後援会長 本部OB・地区委員長
- 監査 駒田幸雄・長谷川容弘
- 会計 寺沢義彦・立見 悟
- 運営委員会 会則一三条(2)により、会長が必要と認めるとき、役員会に代えて随時開催
- 前田 勇・秋間良憲・田中公正・瀬下元雄・佐伯詔一・狩野 謙一・田村和彦・星野信次・小池静男・浅田千秋・笹澤智治・斎藤 隆・福井 久・福島英人・城田博巳 (以上十五人)
- 顧問制度 新たに設けられ、武田理事長・中川学校長にお願いすることとなりました。
- 後援会表彰制度 会則第四条(5)の事業として新設
- 一、その表彰の範囲
 - (1)本校の運動クラブ選手が全国大会で優勝した時
 - (2)本校の運動クラブ選手が世界選手権や国際大会に出場した時
 - (3)本校の文化クラブが大会等において顕著な活躍をした時
 - (4)人命救助やボランティア活動で特に功績があった時
- 二、対象とする者
 - 個人および団体
 - 三、授与する物
 - (1)表彰状 (後援会長)
 - (2)楯(副賞) (校長の記名)

大型バス寄贈

各クラブへ活動援助金を交付



新しい学園バス

六月二十九日に開かれた後援会役員会の席上で、高校後援会から学園に五

百五十万円のバスが寄贈されました。バスは群馬日野自動車から購入。ボディ両側にカラフルな彩りで「I K U E I」の横文字が入

れられスマートな車両でナンバーは10です。今後、学園行事はもちろん、部活動の遠征や各種研修の際に活用される

ことが期待されます。そのほかクラブ活動援助金は、従来の十七クラブに新たに軟式野球部が

加えられ、十八クラブに

対して七百五十万円が

七月中に交付されました。

流水誠心

未曾有の不況が続 き、完全失業率五割 台・約三百万人 と、かつてないほど の就職難時代が到来。 高校生の就職率も下

降の一途をたどり、むしろ大学や専門学校へ行ってから進路を考えるといった傾向が強くなつていきます。中には、大学を出てさえ定職に就かず、いわゆるフリーターの道を選ぶ人も少なからずいるようです。

私たちの世代では、なかなか理解し難い風潮ですが、終身雇用制が崩れ、リストラの嵐が吹き「大企業必ずしも安泰ならず」の現在、やむを得ない選択

合同紙

広報委員

- 保護者会文化委員長 井田 順子
- 同窓会副会長 吉田 幸一
- 後援会常任理事 城田 博巳
- 本部企画広報室長 薬名 正光
- 高校教頭 佐藤泰一郎
- 高校事務長 根岸 豊年